

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
9:00	A101 ○三宅 孝明 <sup>1</sup> ・渡部 哲夫 <sup>1</sup> ・小林 武 <sup>1</sup> ・武内 晴香 <sup>2</sup> ・堀越 亮 <sup>2</sup> ・野村 昌弘 <sup>2</sup> ・加藤 康仁 <sup>1</sup> ・魚本 勝人 <sup>2</sup> (日本化薬(株) <sup>1</sup> ・Meiji Seika ファルマ(株) <sup>2</sup> ) 新規殺虫剤フロメトキンに関する研究—作用特性および速効性—	B101 伊藤 桂 (高知大・昆虫生態) カシノキマタハダニの卵の耐寒性	C101 ○舟山 健・小松 美千代 (秋田果樹試) 慣行防除のリンゴ園で無除草は土着カブリダニの保護に有効か	D101 ○高野 梓 <sup>1</sup> ・加嶋 崇之 <sup>1</sup> ・上宮 健吉 <sup>1</sup> ・三谷 滋 <sup>1</sup> ・吉田 潔充 <sup>1</sup> ・松浦 昌平 <sup>2</sup> ・北村 登史雄 <sup>3</sup> ・大西 純 <sup>3</sup> ・有本 裕 <sup>4</sup> (石原産業(株) <sup>1</sup> ・広島県 <sup>2</sup> ・農研機構 <sup>3</sup> ・理研 <sup>4</sup> ) 新規コナジラミ成虫行動制御剤ベミデタッチ <sup>®</sup> 乳剤 (アセチル化グリセリド)を用いたトマト黄化葉巻ウイルスの防除	E101 新井 詠子 <sup>1</sup> ・石井 一夫 <sup>2</sup> ・石井 宏貴 <sup>1</sup> ・井上 真紀 <sup>1</sup> ・国見 裕久 <sup>1</sup> ・○仲井 まどか <sup>1</sup> (農工大・農 <sup>1</sup> ・久留米大・バイオ統計セ <sup>2</sup> ) 日本で分離されたアスコウイルスの全ゲノム塩基配列とそのベクター寄生蜂
9:15	A102 ○武内 晴香 <sup>1</sup> ・野村 昌弘 <sup>1</sup> ・堀越 亮 <sup>1</sup> ・三宅 孝明 <sup>2</sup> ・浅野 周 <sup>2</sup> ・渡部 哲夫 <sup>2</sup> ・魚本 勝人 <sup>1</sup> ・加藤 康仁 <sup>2</sup> (Meiji Seikaファルマ株式会社 <sup>1</sup> ・日本化薬株式会社 <sup>2</sup> ) 新規殺虫剤フロメトキンに関する研究—作用機作—	B102 ○五味 正志・小山 智大・山村 未来・伊藤 友里加・小島 文香・喜多由紀子・友田 依里 (県立広島大・生命環境) 関東地方北西部のアメリカシロヒトリの3個体群における生活史の検討	C102 ○岸本 英成・柳沼 勝彦・外山 晶敏 (農研機構果樹茶) リンゴ園下草の刈り高がカブリダニ種構成におよぼす影響	D102 ○上宮 健吉 <sup>1</sup> ・加嶋 崇之 <sup>1</sup> ・吉田 潔充 <sup>1</sup> ・有本 裕 <sup>2</sup> (石原産業中央研 <sup>1</sup> ・理研イノベーション推セ <sup>2</sup> ) アセチル化グリセリドが捕食天敵や寄生天敵に悪影響を与えないことの検証	E102 行弘 文子 <sup>1</sup> ・宮本 和久 <sup>1</sup> ・村上 理都子 <sup>1</sup> ・佐藤 令一 <sup>2</sup> ・○渡部 賢司 <sup>1</sup> (農研機構生物研 <sup>1</sup> ・農工大BASE <sup>2</sup> ) カドヘリン様受容体変異カイコにおける中腸細胞の微細構造
9:30	A103 ○竹原 剛史 <sup>1</sup> ・松浦 明 <sup>1</sup> ・土田 聡 <sup>2</sup> ・上樂 明也 <sup>3</sup> ・桑崎 誠剛 <sup>3</sup> (宮崎総農試 <sup>1</sup> ・農研機構果樹茶部門 <sup>2</sup> ・農研機構生物機能利用部門 <sup>3</sup> ) ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの交配試験から推察される新たな抵抗性発現メカニズム	B103 ○松井 悠樹 <sup>1</sup> ・山岸 瑞樹 <sup>2</sup> ・緋田 祐太 <sup>3</sup> ・八瀬 順也 <sup>4</sup> ・中 秀司 <sup>2</sup> (鳥取大・院・農 <sup>1</sup> ・鳥取大・農 <sup>2</sup> ・島根大・院・生物資源 <sup>3</sup> ・兵庫農技総セ <sup>4</sup> ) 鳥取県東部山地において混棲するヒゲナガガ科 <i>Adela</i> 属3種に関する知見	C103 ○外山 晶敏・岸本 英成 (農研機構果樹茶業研究部門) 果樹のハダニ防除における草生栽培の有効性とその活用	D103 ○北村 登史雄 <sup>1</sup> ・大西 純 <sup>2</sup> ・加嶋 崇之 <sup>3</sup> ・水谷 信夫 <sup>1</sup> (農研機構九州沖縄農研 <sup>1</sup> ・農研機構野菜花き研 <sup>2</sup> ・石原産業 <sup>3</sup> ) 天敵を導入した夏秋トマト栽培でのアセチル化グリセリドによるタバココナジラミに対する防除効果と天敵への影響	E103 ○伊藤 克彦 <sup>1</sup> ・横山 岳 <sup>1</sup> ・門野 敬子 <sup>2</sup> (農工大院農 <sup>1</sup> ・農研機構 <sup>2</sup> ) カイコがもつ優性のウイルス感染抵抗性遺伝子の作用機構
9:45	A104 ○土田 聡 <sup>1</sup> ・松浦 明 <sup>2</sup> ・上樂 明也 <sup>3</sup> ・桑崎 誠剛 <sup>3</sup> (農研機構・果樹茶部門 <sup>1</sup> ・宮崎総農試 <sup>2</sup> ・農研機構・生物機能部門 <sup>3</sup> ) ワタアブラムシのネオニコチノイド剤抵抗性遺伝子診断法の改良と有効性の検証	B104 石栗 陽一 (青森産技りんご研) モモンクイガ越冬世代成虫の羽化時期はなぜばつぐのか	C104 ○澤村 信生・角 菜津子・山本 隼祐 (島根農技セ) 島根県の施設ブドウにおける栽培条件とカブリダニ類の定着	D104 ○亀井 幹夫 <sup>1</sup> ・松浦 昌平 <sup>1</sup> ・星野 滋 <sup>1</sup> ・日本 典秀 <sup>2</sup> (広島総研農技セ <sup>1</sup> ・農研機構中央農研 <sup>2</sup> ) 忌避剤アセチル化グリセリドと天敵タバコカスミカメの併用による夏秋トマト栽培でのオンシツコナジラミ防除効果の実証	E104 ○三橋 渡・宮本 和久・杉本 貴史 (農研機構) ウイルス産生タンパク質フゾリンによる囲食膜崩壊における中腸プロテアーゼの重要な役割
10:00	A105 ○務川 重之・生田 目雅之・小松 正明 (クミアイ化学工業(株)) ピリフルキナゾン (コルト <sup>®</sup> )に関する研究 (第6報) —ジャガイモヒゲナガアブラムシの吸汁行動に及ぼす影響—	B105 檜垣 守男 (農研機構・果樹茶部門・興津) モモチヨッキリの生活史—幼虫休眠と成虫休眠の役割—	C105 ○角 菜津子・澤村 信生・山本 隼祐 (島根農技セ) 施設ブドウにおける下草やわら堆肥がカブリダニ類に及ぼす影響	D105 ○David WARI・Motonori TAKAGI・Ryo OKADA・Takafumi IKEGAMI・Masato YAGUCHI・Tetsuro KASHIMA (IHR) Augmenting <i>Beauveria bassiana</i> GHA strain in managing Silverleaf Whitefly in tomato	E105 ○西 大海・窪田 昌春・飯田 祐一郎 (農研機構・野菜花き) 昆虫寄生菌2種のトマト植物体内外における生育

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F101 妙楽 崇（岐阜農技セ） ヒラスハナアザミウマ成虫に対するIGR剤処理による次世代増殖の抑制	G101 山下 大志・大出 高弘・大門 高明（京大院農） カイコの変態抑制遺伝子Kr-h1の機能解析	H101 ○立石 康介 <sup>1</sup> ・渡邊 英博 <sup>1</sup> ・田中 真史 <sup>2</sup> ・西村 至央 <sup>2,3</sup> ・佐久間 正幸 <sup>2,4</sup> ・横張 文男 <sup>1</sup> （福岡大学・理 <sup>1</sup> ・京都大学・農院 <sup>2</sup> ・(株)アテック・ヤナ <sup>3</sup> ・放送大学 <sup>4</sup> ） ワモンゴキブリ幼虫の性および集合フェロモン受容の感受子の同定とその特徴	I101 ○佐々木 幹了・金田 昌士・佐藤 雅（横浜植防） ミカンコミバエ雌成虫のブタノールへの反応	J101 池田 健一・平井 規央・上田 昇平（大阪府大・生命） 大阪府箕面市においてアゲトアリが土壌動物相に与える影響	9:00
F102 ○櫻井 民人 <sup>1</sup> ・安部 洋 <sup>2</sup> ・大矢 武志 <sup>3</sup> ・松浦 昌平 <sup>4</sup> ・三富 正明 <sup>5</sup> ・腰山 雅巳 <sup>6</sup> ・千秋 祐也 <sup>1</sup> ・富高 保弘 <sup>7</sup> ・岩崎 大樹 <sup>8</sup> ・津田 新哉 <sup>1</sup> （農研機構中央農研 <sup>1</sup> ・理研BRC <sup>2</sup> ・神奈川農技セ <sup>3</sup> ・広島総研農技セ <sup>4</sup> ・Meiji Seika ファルマ <sup>5</sup> ・日本ゼオン <sup>6</sup> ・九冲農研 <sup>7</sup> ・光波 <sup>8</sup> ） ミカンキイロアザミウマの防除におけるプロヒドロジャスモンと各種資材の併用効果	G102 ○乾 智洋 <sup>1</sup> ・瀬筒 秀樹 <sup>2</sup> ・大出 高弘 <sup>1</sup> ・大門 高明 <sup>1</sup> （京大院農 <sup>1</sup> ・農研機構 <sup>2</sup> ） カイコにおけるヘテロクロニック遺伝子 <i>let-7</i> の機能解析	H102 坂本 洋典 <sup>1</sup> ・○田中 誠二 <sup>2</sup> ・秦 珠子 <sup>2</sup> ・菅原 亮平 <sup>2,3</sup> （早稲田大学 <sup>1</sup> ・農機大 <sup>2</sup> ・学振 <sup>3</sup> ） なぜバッタはベートベンを流すと早く孵化する？胚のだす振動の関与	I102 ○中原 重仁・金田 昌士・肥後 雄一（横浜植防） ミカンコミバエ雄成虫のメチルオイゲノールへの反応低下現象	J102 ○辻 和希・Win Aye Thanda（琉大・農） アリには多索性と単索性がなぜあるのか	9:15
F103 ○大上 恵 <sup>1</sup> ・溝山 泰徳 <sup>2</sup> ・尾上 美和 <sup>3</sup> （ダウ・アグロサイエンス日本（株） <sup>1</sup> ・日産化学工業（株） <sup>2</sup> ・北興化学工業（株） <sup>3</sup> ） 新規殺虫剤イソクラスト™に関する研究（7）トランスフォームのアザミウマ類への効果とピレスコ顆粒水和剤の性能	G103 ○山本 学・大門 高明（京大院・農・昆虫生理） ホメオティック遺伝子Scrによるカイコの幼虫脱皮回数制御機構	H103 長 泰行（千葉大・応用昆虫） 血縁認識するギルド内被食者による卵の共同保護	I103 ○西田 律夫 <sup>1</sup> ・Howcroft Neville <sup>2</sup> ・Tan Keng Hong <sup>3</sup> ・小野 肇 <sup>4</sup> （京都市 <sup>1</sup> ・Vudal PMB大 <sup>2</sup> ・元マレーシア理大 <sup>3</sup> ・京大院・農 <sup>4</sup> ） 熱帯オセアニアのミバエランの花成分と送粉ミバエ種の探索	J103 ○久本 峻平・保坂 菜摘・松並 由佳・岩崎 秀雄（早稲田大学 先進理工） クロヤマアリの協調運搬システムの解明 ～再試行による経路情報の更新～	9:30
F104 ○青木 由美 <sup>1</sup> ・西島 裕恵 <sup>2</sup> ・守川 俊幸 <sup>1</sup> （富山農総セ <sup>1</sup> ・富山県庁 <sup>2</sup> ） 富山県におけるネギアザミウマ個体群の生殖系統および殺虫剤感受性	G104 ○峯村 俊儀 <sup>1</sup> ・大出 高弘 <sup>1</sup> ・新美 輝幸 <sup>2</sup> ・塩月 孝博 <sup>3</sup> ・大門 高明 <sup>1</sup> （京大院農 <sup>1</sup> ・基生研進化発生 <sup>2</sup> ・島根大院生物資源 <sup>3</sup> ） マダラシミの胚発生期における幼若ホルモン関連遺伝子群の発現解析	H104 ○安部 淳 <sup>1</sup> ・入谷 亮介 <sup>2</sup> ・土田 浩治 <sup>3</sup> ・上村 佳孝 <sup>4</sup> （明治学院大・教養 <sup>1</sup> ・California大 <sup>2</sup> ・岐阜大・応用生物 <sup>3</sup> ・慶応大・生物 <sup>4</sup> ） 寄生バチ <i>Melittobia</i> の血縁雌による協力的雌偏同性比	I104 ○菅野 伸哉・小野 肇（京大・農） ミカンバエの食害の有無によるウンシュウミカン成熟果の香気成分の比較	J104 ○大河原 恭祐 <sup>1</sup> ・長 亜希子 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>2</sup> （金沢大・自然・生物 <sup>1</sup> ・京都工織大・応用生物 <sup>2</sup> ） 社会寄生種ヤドリウメマツアリの卵における形態的・化学的擬態について	9:45
F105 ○横田 啓・熊谷 初美・福田 拓斗・荻内 謙吾（岩手県北農研） 春まきタマネギにおける殺虫剤の散布頻度がネギアザミウマの発生とタマネギ収量・腐敗に及ぼす影響 ～3カ年の試験事例を元に～	G105 ○粥川 琢巳 <sup>1</sup> ・篠田 徹郎 <sup>1</sup> ・米須 清明 <sup>2</sup> ・岡部 隆義 <sup>2</sup> （農研機構・生物機能 <sup>1</sup> ・東大・創薬機構 <sup>2</sup> ） 幼若ホルモン受容体を標的とした新規昆虫成長制御剤の開発	H105 岡田 琴音・○熊野 了州（帯広畜産大学・昆虫生態） ワラジムシの交替性転向反応は性・抱卵・異性との遭遇によって変化する	I105 ○藤井 毅・和田 佳親・稲葉 寛・戎 焯・石川 幸男（東大院農・応用昆虫） ガの幼虫が摂取した必須脂肪酸がフェロモン成分比に与える影響の一例	J105 ○中村 哲朗・秋野 順治（京工織大） トビイロシワアリの兵候アリは動員時に獲物の移動可能性や反撃性を伝達する	10:00

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
10:15	A106 ○八島 圭佑・稲川 光一・花田 浩平・藤田 一平・谷川 哲朗(協友アグリ(株)) 新規気門封鎖型薬剤ピタイチの開発 第1報(本剤特徴と各種害虫への効果)	B106 ○綱島 彩香・糸山 享(明治大院・農) ナンキンハゼの果実を用いたツヤアオカメシ幼虫の飼育	C106 ○香川 理威 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>1</sup> ・中島 哲男 <sup>2</sup> ・岸本 英成 <sup>3</sup> ・外山 晶敏 <sup>3</sup> (石原産業 <sup>1</sup> )・石原バイオサイエンス <sup>2</sup> (株) <sup>2</sup> ・農研機構果樹茶業研究部門 <sup>3</sup> ) 温度条件がカブリダニ保護装置バンカーシート <sup>®</sup> の天敵放出性に及ぼす影響	D106 ○猪苗代 翔太・関根 崇行・鈴木 香深(宮城農園研) 宮城県における夏秋栽培トマトでの改良型赤色ネット・天敵タバコカスミカメ・天敵温存植物バーベナを組み合わせた防除体系の有効性	E106 神谷 克巳(岐阜農技セン) 昆虫寄生糸状菌製剤を処理したトマト葉上における菌体量の動態について
10:30	A107 ○稲川 光一・八島 圭佑・井尻 悠士・谷川 哲朗(協友アグリ(株)) 新規気門封鎖型薬剤ピタイチの開発 第2報(作用・特性)	B107 ○井上 真紀 <sup>1</sup> ・大野 ゆかり <sup>2</sup> ・芳賀 友里 <sup>1</sup> ・新井 大 <sup>1</sup> ・佐野 朋也 <sup>1</sup> ・仲井 まどか <sup>1</sup> ・国見 裕久 <sup>1</sup> ・Martemyanov Vyacheslav <sup>3</sup> (農工大院・農 <sup>1</sup> ・東北大・生命科学 <sup>2</sup> ・ロシア科学アカデミー <sup>3</sup> ) 日本産マイマイガ <i>Lymantria dispar</i> の発生動態と地理的分布パターン	C107 ○吉村 忠浩 <sup>1</sup> ・香川 理威 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>1,2</sup> ・中島 哲男 <sup>2</sup> ・外山 晶敏 <sup>3</sup> ・岸本 英成 <sup>3</sup> (石原産業(株) <sup>1</sup> )・石原バイオサイエンス(株) <sup>2</sup> ・農研機構果樹茶部門 <sup>3</sup> ) ミヤコカブリダニの発育に対する農薬の影響	D107 ○鈴木 香深・関根 崇行・猪苗代 翔太(宮城農園研) 次世代型バンカー資材キットを用いた施設栽培イチゴのアブラムシ類の防除について	E107 ○富原 工弥・三浦 宏晴・吉田 和弘・田中 雅也・八瀬 順也(兵庫農技総セ) フェロモントラップと気象データによるハスモンヨトウ量の発生予察の試み
10:45	A108 ○土井 誠・中野 亮平・片山 晴喜・石川 隆輔(静岡農林研) ピフルブミド・フェンピロキシメート水和剤と脂肪酸グリセリド乳剤混用によるナミハダニ黄緑型に対する殺虫効果向上	B108 ○日下部 良康 <sup>1</sup> ・井上 大成 <sup>2</sup> (横浜市 <sup>1</sup> ・森林総研・多摩 <sup>2</sup> ) オオトラカミキリ幼虫の樹脂対策は環状痕だけではなくかった!?(予報)	C108 ○中野 昭雄 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>2</sup> (徳島農総技セ <sup>1</sup> ・石原産業(株) <sup>2</sup> ) 2種カブリダニバック製剤の放出特徴と天敵保護装置バンカーシート <sup>®</sup> の有効性	D108 ○伊藤 健司・手塚 俊行・小原 慎司(株式会社アグリ総研) バンカー型製剤によるイチゴでのチューリップヒゲナガアブラムシ防除効果	E108 大江 高穂(宮城古川農試) 宮城県のダイズにおけるダイズサヤムシガの発生消長
11:00	A109 ○中野 元文・山下 雄大・田中 綾介・諏訪 明之・藤岡 伸祐(日本農業(株)) 新規殺ダニ剤ピフルブミドに関する研究(第9報)-ナミハダニ野外個体群に対するピフルブミドの殺ダニ活性と虫体吸収量の関係-	B109 今井 利宏(JT葉たばこ研) オオメヒメマキムシ <i>Dienerella argus</i> (Reitter) のカビでの発育	C109 ○上里 卓己 <sup>1</sup> ・喜久 村 智子 <sup>2</sup> ・秋田 愛子 <sup>1</sup> ・守 屋 伸生 <sup>1</sup> (沖縄農研セ <sup>1</sup> ・沖縄北部普及課 <sup>2</sup> ) 無加温施設サヤインゲンに発生するタバココナジラミとスワルスキーカブリダニ及びリモニカスカブリダニの株内分布	D109 ○中井 清裕 <sup>1</sup> ・日本 典秀 <sup>2</sup> ・相澤 美里 <sup>1</sup> (香川農試 <sup>1</sup> ・農研機構・中央農研 <sup>2</sup> ) イチゴにおけるヒラズハナアザミウマの施設および野外における個体群構造の解明	E109 ○石川 博司・坂 紀 邦(愛知農総試) 愛知県内のダイズにおけるオオタバコガの発生消長について
11:15	A110 深澤 直人(JT葉たばこ研) リン化水素抵抗性タバコシバンムシに対する各種殺虫剤の効果	B110 ○三宅 崇 <sup>1</sup> ・相原 夏樹 <sup>1</sup> ・前田 健 <sup>2</sup> ・山平 寿智 <sup>3</sup> (岐阜大・教育 <sup>1</sup> ・沖縄科学技術大学院大学 <sup>2</sup> ・琉球大・熱生研 <sup>3</sup> ) カニアナヤブカの吸血魚類相の地域変異	C110 ○土田 祐大・増井 伸一(静岡農林研果研セ) カブリダニの保護・利用によるミカンサビダニ防除体系の検討	D110 ○中村 晃紳・糸山 享(明治大学大学院農学研 究科) 促成イチゴの育苗ハウスに設置した赤色防虫ネットによるアザミウマ類の侵入抑制効果	E110 ○中 秀司 <sup>1</sup> ・徳丸 晋 <sup>2</sup> ・久木崎 孝弘 <sup>3</sup> ・矢野 高 広 <sup>4</sup> ・松井 悠樹 <sup>5</sup> ・山岸 瑞 樹 <sup>1</sup> (鳥取大・農 <sup>1</sup> ・京都府 農技センター <sup>2</sup> ・京都府丹 後農改セ <sup>3</sup> ・日本蛾類学会 <sup>4</sup> ・鳥取大・院農 <sup>5</sup> ) 京都府北部で発見されたナシの新害虫ナシコスカシバ

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F106 ○徳丸 晋・橋本 典久・檜垣 誠司（京都府農技センター） 京都府におけるネギアザミウマの生殖系統の地理的分布および季節的発生推移	G106 ○荻原 麻理・香嶋 郁美・藤永 大輝・片岡 宏志（東大・新領域） 休眠中のカイコ胚におけるエクジステロイド生成ダイナミクス	H106 中野 亮（農研機構・果樹茶部門） ガ類の求愛超音波に見られる音圧と長さのトレードオフ	I106 市川 俊英（株）KINP オオスズメバチが嫌うクヌギ樹液（その1）	J106 ○松浦 健二・水元 惟暁（京大院・農・昆虫生態） シロアリのゲノム刷り込みによるカースト決定システム	10:15
F107 ○高木 素紀 <sup>1</sup> ・窪田 直也 <sup>1</sup> ・草野 尚雄 <sup>2</sup> ・横山 朋也 <sup>3</sup> ・鹿島 哲郎 <sup>1</sup> （茨城農総セ・園研 <sup>1</sup> ・茨城農総セ <sup>2</sup> ・茨城農総セ・農大 <sup>3</sup> ） 茨城県のネギアザミウマにおける生殖型と薬剤感受性との関係	G107 ○船橋 智輝・齊藤 惇基・小野 肇（京大・農） 7-Dehydrocholesterolの酸化反応に着目したecdysone 生合成経路の解析	H107 ○弘中 満太郎 <sup>1</sup> ・今西 那珠奈 <sup>1</sup> ・森田 俊哉 <sup>2</sup> ・南條 宏太 <sup>2</sup> ・針山 孝彦 <sup>2</sup> （石川県立大・植物保護 <sup>1</sup> ・浜松医大・生物 <sup>2</sup> ） フリッカー光によるチャバネアオカメムシの走光性行動の攪乱	I107 ○金 哲史 <sup>1,2</sup> ・市川 俊英 <sup>2</sup> ・中島 修平 <sup>2</sup> （高知大農 <sup>1</sup> ・（株）KINP <sup>2</sup> ） オオスズメバチが嫌うクヌギ樹液（その2）	J107 ○香掛 磨也子・森山 実・深津 武馬（産総研・生物プロセス） 兵隊アブラムシの自己犠牲的なゴール修復に関わる脂質成分の解析	10:30
F108 ○鶴田 祐士・濱本 卓・武田 千秋・三谷 滋・森田 雅之（石原産業（株）） 新規殺虫剤シクラニプロールに関する研究（第5報）-茶分野で問題になる害虫種に対する防除効果と特性-	G108 ○宇野 知秀・尾崎屋 悠祐・金丸 研吾（神戸大学農学部） 昆虫の低分子量GTP結合蛋白質Rabの機能解析	H108 ○金城 聖良 <sup>1</sup> ・日室 千尋 <sup>2,3</sup> ・本間 淳 <sup>2,3</sup> ・嘉数 怜 <sup>4</sup> （沖縄県防技セ <sup>1</sup> ・琉球産経 <sup>2</sup> ・琉大農 <sup>3</sup> ・沖縄県糖農 <sup>4</sup> ） ウリミバエ不妊虫放飼における夏期の羽化率低下を引き起こす要因の探索	I108 ○大橋 駿樹・太田 伸二・大村 尚（広島大・院・生物圏） キタキチョウの産卵を制御する植物化学成分：グリシンペタイン	J108 上野 高敏（九大・農・生防研） 侵略的外来種ツマアカスズメバチによる長崎県壱岐への分布拡大	10:45
F109 ○磯輪 亮太・濱本 卓・武田 千秋・三谷 滋・森田 雅之（石原産業（株）） 新規殺虫剤シクラニプロールに関する研究（第6報）-果樹分野で問題になる害虫種に対する防除効果と特性-	G109 ○松村 崇志・早川 洋一（佐賀大学 農学研究科） 昆虫サイトカインStress responsive peptide (SRP)の発現機構と生理機能	H109 ○日室 千尋 <sup>1,2,3</sup> ・本間 淳 <sup>1,2,3</sup> ・池川 雄亮 <sup>1,2,3</sup> ・大石 毅 <sup>2</sup> （琉球産経株式会社 <sup>1</sup> ・沖縄県病害虫防除技術センター <sup>2</sup> ・琉球大学農学部 <sup>3</sup> ） イモゾウムシ雄の射精物は幼虫期の餌によって変化する	I109 ○吉森 健人 <sup>1</sup> ・奥田 知佳 <sup>2</sup> ・太田 伸仁 <sup>1</sup> ・大村 尚 <sup>1</sup> （広島大・院・生物圏 <sup>1</sup> ・広島大・生物生産 <sup>2</sup> ） キタキチョウ成虫のオス特異的な匂い成分の化学構造と生理機能	J109 ○奥成 潤 <sup>1,2</sup> ・芳山 三喜雄 <sup>2</sup> ・木村 澄 <sup>2,1</sup> （筑波大 生命環境 <sup>1</sup> ・農研機構 畜産 <sup>2</sup> ） 人工飼養ミツバチを用いたカースト分化制御機構の解明	11:00
F110 ○阿部 成人・中西 友章（徳島農総技セ） 徳島県におけるピワキジラミの防除薬剤と展着剤による防除効果について	G110 吉成 祐人 <sup>1</sup> ・天久 朝恒 <sup>1</sup> ・近藤 周 <sup>2</sup> ・谷本 拓 <sup>3</sup> ・丹羽 隆介 <sup>1</sup> （筑波大・生命環境 <sup>1</sup> ・遺伝研・系統生物 <sup>2</sup> ・東北大・院生命 <sup>3</sup> ） ショウジョウバエのアセチルコリン-オクトパミン神経を介した交尾依存的な生殖幹細胞の増殖調節	H110 ○大石 毅 <sup>1</sup> ・本間 淳 <sup>1,2,3</sup> ・日室 千尋 <sup>1,2,3</sup> ・松山 隆志 <sup>1</sup> ・照屋 清仁 <sup>4</sup> （沖防技セ <sup>1</sup> ・琉球大農 <sup>2</sup> ・琉球産経 <sup>3</sup> ・沖縄村計画 <sup>4</sup> ） 3種の寄主植物から採集されるイモゾウムシ野生オスの体サイズ	I110 両角 勇太郎 <sup>1</sup> ・村上 智俊 <sup>1</sup> ・渡邊 通人 <sup>2</sup> ・太田 伸二 <sup>1</sup> ・大村 尚 <sup>1</sup> （広島大・院・生物圏 <sup>1</sup> ・富士山自然保護センター <sup>2</sup> ） ミヤマシジミ雄成虫が産生する性特異的な揮発性セスキテルペノイド	J110 ○Stoic Marko <sup>1</sup> ・Yoshiyama Mikio <sup>1</sup> ・Morimoto Nobuo <sup>1</sup> ・Kimura Kiyoshi <sup>1,2</sup> （NILGS NARO <sup>1</sup> ・Univ. Tsukuba <sup>2</sup> ） Detailed analysis of midgut/pyloric microbial population in European and Japanese honey bees	11:15

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
15:15	A111 ○城塚 可奈子・柴尾学 (大阪環農水研) 異なる餌での累代飼育がネギアザミウマの生殖型と薬剤感受性に及ぼす影響	B111 田中 一裕 (宮城学院女子大・一般教育) マダラスズにおける季節的な雌性先熟	C111 ○柳沼 勝彦・岸本英成 (農研機構果樹茶研) ハダニ類の土着天敵を保護する防除体系のリング園における害虫発生について	D111 ○里見 純 <sup>1</sup> ・菅沼 香純 <sup>2</sup> ・竹本 大輔 <sup>3</sup> ・奥野 昌平 <sup>1</sup> ・光畑 雅宏 <sup>1</sup> (アリスライフサイエンス(株) <sup>1</sup> ・JAとびあ浜松 <sup>2</sup> ・(株)コジマヤ <sup>3</sup> ) 促成栽培イチゴのアザミウマ類に対する「リモニカ」の効果試験事例	E111 ○山口 卓宏・西村 恵一・稲森 博行・久米 隆志・坂元 真一郎・福元 智博・嶽崎 研・尾川 宜広 (鹿児島農総セ大島) 2015年に奄美大島でミカンコミバエの寄生が確認された果実とその地点の特徴
15:30	A112 ○上樂 明也 <sup>1</sup> ・桑崎 誠剛 <sup>1</sup> ・草野 尚雄 <sup>2</sup> ・高木 素紀 <sup>2</sup> ・平田 晃一 <sup>3</sup> ・飯田 博之 <sup>4</sup> ・太田 泉 <sup>4</sup> ・柴尾 学 <sup>5</sup> ・城塚 可奈子 <sup>5</sup> ・武澤 友二 <sup>6</sup> ・岩崎 暁生 <sup>6</sup> (農研機構・生物機能部門 <sup>1</sup> ・茨城農総セ園研 <sup>2</sup> ・日本曹達株式会社 <sup>3</sup> ・農研機構・野菜花き部門 <sup>4</sup> ・大阪環農水研 <sup>5</sup> ・道総研 <sup>6</sup> ) ネギアザミウマのジノテフラン抵抗性原因遺伝子の探索	B112 ○鳥 義野 <sup>1</sup> ・藤田 大輝 <sup>1</sup> ・河上 真弥 <sup>1</sup> ・清水 明日香 <sup>1</sup> ・古木 隆寛 <sup>1</sup> ・中城 満 <sup>2</sup> ・原田 哲夫 <sup>1</sup> (高知大・教・環境生理 <sup>1</sup> ・高知大・教・理科教育 <sup>2</sup> ) 高知県南国市農業用水路でのアメンボ科昆虫種構成の季節変動II	C112 望月 雅俊 (農研機構果樹茶部門) ミカンバエ産卵管長さとかんきつ果皮厚の比較による被害発生リスクの検討	D112 ○堀川 拓未 <sup>1</sup> ・相川 敏之 <sup>1</sup> ・濱登 尚徳 <sup>1</sup> ・沼沢 健一 <sup>2</sup> (新潟園芸研 <sup>1</sup> ・JA全農 <sup>2</sup> ) 新潟県の促成イチゴ栽培における天敵カブリダニ類を用いたナミハダニ防除	E112 ○池上 真木彦・五箇 公一 (国環研) 自己組織化マップによる外来害虫の侵入リスク分析
15:45	A113 ○相澤 美里 <sup>1</sup> ・中井 清裕 <sup>1</sup> ・熊野 明美 <sup>1</sup> ・玉垣 くみ江 <sup>1</sup> ・渡邊 丈夫 <sup>2</sup> ・園田 昌司 <sup>3</sup> (香川農試 <sup>1</sup> ・JA香川県 <sup>2</sup> ・宇都宮大学 <sup>3</sup> ) 香川県で確認されたミカンキイロアザミウマのスピノシン系抵抗性の遺伝様式	B113 ○渡辺 寛己・多々良 明夫 (法政大学生命科学部) 薬用植物に発生する害虫類	C113 ○榎原 稔 <sup>1</sup> ・後藤 優太 <sup>1</sup> ・望月 雅俊 <sup>2</sup> (大分農水研果樹 <sup>1</sup> ・農研機構果樹茶部門 <sup>2</sup> ) ミカンバエに対する新たなモニタリングトラップの検討	D113 ○片山 晴喜・土井 誠・伊代住 浩幸・斉藤 千温・中野 亮平 (静岡農林技研) イチゴにおけるUVB照射、光反射シートおよび天敵カブリダニによるIPM	E113 山村 光司 (農環研) 害虫の根絶を確認するための必要サンプル数
16:00	A114 ○今村 剛士 <sup>1</sup> ・Lifeng Yuan <sup>2</sup> ・刑部 正博 <sup>2</sup> (奈良農研セ <sup>1</sup> ・京大院農 <sup>2</sup> ) 奈良県で採集したナミハダニ黄緑型におけるピフェナゼート抵抗性の遺伝様式とチトクロムb遺伝子の点突然変異	B114 宇高 寛子 (京大・院理) 外来種マダラコウラナメクジの分布と遺伝的多様性	C114 ○内田 一秀・村上 芳照・國友 義博・綿打 享子・功刀 幸博・望月 孝一 (山梨果試) 施設栽培モモにおけるウメシロカイガラムシ幼虫の発生時期	D114 ○衛藤 友紀 <sup>1</sup> ・香川 理威 <sup>2</sup> (佐賀農業セ <sup>1</sup> ・石原産業中央研 <sup>2</sup> ) 半促成長期どり栽培アスパラガスにおける天敵を活用した害虫防除の可能性	E114 中 一晃 (和歌山果試) アカマルカイガラムシのフェロモントラップを用いた防除適期の把握
16:15	A115 ○中野 亮平・土井 誠・片山 晴喜・石川 隆輔 (静岡農林技研) 紫外線 (UV-B) 照射による物理的防除および化学的防除がイチゴのナミハダニ個体群の薬剤抵抗性遺伝子頻度に与える影響	B115 ○細井 昂人・大木 拓海・吉田 ひかり・佐々木 康幸・矢嶋 俊介・伊藤 晋作 (東農大バイオ) ダイズシストセンチュウの誘引制御メカニズムの解明	C115 布山 佳浩 (長野県南信農業試験場) 長野県におけるかきのフジコナカイガラムシ越冬齢期	D115 ○近森 ちさこ・下元 満喜 (高知農技セ) 施設シントウにおけるタバコカミカメを利用したチビトビカミカメ類の防除	E115 ○佐野 正和・大木 健広・高篠 賢二・豊島 真吾・眞岡 哲夫 (農研機構・北農研) ジャガイモ圃場におけるジャガイモYウイルス (PVY) 保毒アブラムシの種構成と保毒PVY系統の解析

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F111 ○桑原 大樹・佐古 勇・高城 圭子・諏訪 明之・藤岡 伸祐(日本農薬(株)) ピリフルキナゾン(コルト®)に関する研究(第5報) チョウ目害虫に対する防除効果	G111 ○Richard CORNETTE <sup>1</sup> ・Oleg GUSEV <sup>2</sup> ・黄川田 隆洋 <sup>1</sup> (農研機構 <sup>1</sup> ・理研 <sup>2</sup> ) メタボローム解析から見えてきたネムリユスリカの乾燥幼虫の蘇生メカニズム	H111 ○杉浦 真治 <sup>1</sup> ・高梨 琢磨 <sup>2</sup> (神戸大・農 <sup>1</sup> ・森林総研 <sup>2</sup> ) オオシモフリスズメ幼虫の天敵に対する反撃行動	I111 ○飯坂 真衣 <sup>1</sup> ・小池 友恵 <sup>1</sup> ・鈴木 麻衣子 <sup>1</sup> ・上 船 雅義 <sup>1</sup> ・小澤 理香 <sup>2</sup> ・松井 健二 <sup>3</sup> ・高林 純示 <sup>2</sup> (名城大農 <sup>1</sup> ・京大生態研 <sup>2</sup> ・山口大院創成科学(農) <sup>3</sup> ) ゼニゴケのハスモンヨトウに対する蛹化阻害効果	J111 ○佐々木 謙・松山 日名子・森田 成亮・小野 正人(玉川大・農) クロマルハナバチ雌の卵巣発達に伴う脳内ドーパミン量の動態とそのカースト差	15:15
F112 ○溝部 信二・畑中 猛(山口農林総技セ) オウトウショウジョウバエの卵の薬剤感受性検定法	G112 ○山本 大介 <sup>1</sup> ・炭谷 めぐみ <sup>2</sup> ・加藤 大智 <sup>1</sup> (自治医大・医動物学 <sup>1</sup> ・農研機構・カイコU <sup>2</sup> ) ハマダラカにおける <i>doublesex</i> 遺伝子ノックアウト	H112 ○Gasangwa Ivan・Ueno Takatoshi(九大院・農・生防研) Synergy or snag; the role of non-prey foods for <i>Orius strigicollis</i> : Anthocoridae fitness	I112 ○Yu Rong <sup>1</sup> ・藤井 毅 <sup>1</sup> ・中 秀司 <sup>2</sup> ・山本 雅信 <sup>1</sup> ・石川 幸男 <sup>1</sup> (東大院・農 <sup>1</sup> ・鳥取大・農 <sup>2</sup> ) クワゴマダラヒトリ性フェロモン生合成に関するエポキシ化酵素の機能解析	J112 ○久保 良平 <sup>1</sup> ・小野 正人 <sup>1,2</sup> (玉川大・ミツバチ科学 <sup>1</sup> ・玉川大・院・農・昆虫機能 <sup>2</sup> ) 日本在来種マルハナバチにおける雄の頭部下唇腺で生産される香気の機能解析	15:30
F113 ○岩本 哲弥・溝部 信二・本田 善之(山口農林総技セ) メチルイソチオシアネート(MITC)くん蒸剤によるクリシギゾウムシ防除の検討	G113 ○長谷川 毅・松本 由記子(農研機構) ツマグロヨコバイの口針鞘に含まれるタンパク質成分の解析	H113 ○向井 裕美・北島 博・所 雅彦(森林総研・森林昆虫) 菌食性ナガマドキノコバエ類に寄生するハチは菌類の匂いを頼りに宿主を探す	I113 ○深谷 緑 <sup>1</sup> ・桐山 哲夫 <sup>1</sup> ・中山 雄飛 <sup>1</sup> ・岩田 隆太郎 <sup>1</sup> ・所 雅彦 <sup>2</sup> ・安居 拓恵 <sup>3</sup> ・中野 昭雄 <sup>4</sup> ・渡邊 崇人 <sup>4</sup> (日大生物資源 <sup>1</sup> ・森林総研 <sup>2</sup> ・中央農研 <sup>3</sup> ・徳島農総技セ <sup>4</sup> ) 侵略的外来種クビアカツヤカミキリ成虫の野外における誘殺 - 糖酢液 及び 視覚要因がフェロモントラップの誘引性に与える影響	J113 光畑 雅宏(アリスタ) 外来種と在来種マルハナバチの栽培施設内における送粉者としての活動比較	15:45
F114 ○加々美 貴弘・稲田 誠・堀 雅仁・春山 裕史(日産化学工業株式会社) 新規殺虫剤フルキサメタミド(グレーシア®)に関する研究 ~果菜類における防除効果と特性~	G114 菊田 真吾(茨城大農) コクヌストモドキがよく好む甘み、マンニトールの認識と代謝	H114 ○佐久間 知佐子 <sup>1,2</sup> ・嘉糠 洋陸 <sup>1,2</sup> (慈恵医大 熱帯医学 <sup>1</sup> ・慈恵医大 衛生動物学研究セ <sup>2</sup> ) 蚊の吸血開始および吸血停止を制御する分子基盤の解明	I114 ○森山 太介 <sup>1</sup> ・新垣 則雄 <sup>2</sup> ・金山 祥子 <sup>1</sup> ・大池 昌裕 <sup>1</sup> ・小野 裕嗣 <sup>3</sup> ・安居 拓恵 <sup>4</sup> ・若村 定男 <sup>1</sup> (京都学園大学 <sup>1</sup> ・沖縄農研 <sup>2</sup> ・農研機構・高度解析セ <sup>3</sup> ・農研機構・中央農研 <sup>4</sup> ) リュウキュウツヤハナムグリのオスを誘引するボウランの花香物質の同定; リュウキュウツヤハナムグりに化学擬態するボウラン	J114 ○廣川 諭・手塚 俊行・森 修二郎(株式会社アグリ総研) 北海道在来種エゾオオマルハナバチの授粉用資材としての可能性について	16:00
F115 高田 愛弓 <sup>1</sup> ・上野 諒子 <sup>2</sup> ・野山 晋平 <sup>2</sup> ・有本 裕 <sup>3</sup> ・鈴木 文詞 <sup>4</sup> (農工大・農 <sup>1</sup> ・OATアグリオ(株) <sup>2</sup> ・理研 <sup>3</sup> ・農工大 院・BASE <sup>4</sup> ) サフオイル乳剤のハダニ殺卵機構:呼吸阻害説と孵化阻害説	G115 ○小野寺 駿・山崎 祥他・尾間 由佳子・麻生 久・原田 昌彦・堀 雅敏(東北大院・農) 昆虫細胞に対する青色光の増殖抑制効果	H115 ○大庭 伸也 <sup>1</sup> ・沼田 郁 <sup>1</sup> ・川野 敬介 <sup>2</sup> (長崎大・教育・生物 <sup>1</sup> ・豊田ホテルの里ミュージアム <sup>2</sup> ) 長崎県におけるゲンジボタルの地理的変異	I115 飯田 隼也 <sup>1</sup> ・波多 久美子 <sup>1</sup> ・増田 武虎 <sup>1</sup> ・Maffei Massimo <sup>2</sup> ・Galís Ivan <sup>3</sup> ・有村 源一郎 <sup>1</sup> (東京理科大・生物工学科 <sup>1</sup> ・トリノ大 <sup>2</sup> ・岡山大・資源植物科学研 <sup>3</sup> ) 寄主植物の防御応答を制御するナミハダニのエリンター「TETRANIN」の同定	J115 ○嘉糠 洋陸 <sup>1,2</sup> ・吉田 拓磨 <sup>1,2,3</sup> ・大塚 沙緒里 <sup>1,2</sup> ・青沼 宏佳 <sup>1,2</sup> (慈恵医大・熱帯医学 <sup>1</sup> ・慈恵医大・衛生動物セ <sup>2</sup> ・慈恵医大・形成外科 <sup>3</sup> ) マゴットセラピー用新規ヒロズキンバエ系統の樹立の試み	16:15

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
16:30	A116 山本 敦司(日本曹達(株)小田原研) ダニ類成長阻害剤の抵抗性管理による有効活用	B116 ○関本 茂行 <sup>1</sup> ・久井 潤也 <sup>1</sup> ・岩堀 英晶 <sup>2</sup> (横浜植防 <sup>1</sup> ・龍谷大・農 <sup>2</sup> ) 我が国におけるテンサイシストセンチュウの初確認	C116 ○渡邊 崇人・中野 昭雄(徳島農総技セ) 徳島県におけるクビアカツヤカミキリの被害及び成虫の発生状況	D116 ○柴尾 学・城塚 可奈子・金子 修治(大阪環農水研) 赤色光照射条件下での光反射シートの有無が施設ナスのアザミウマ類の密度抑制に及ぼす影響	E116 岡本 崇(和歌山農試) 和歌山県のネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシ発生状況と採集法
16:45	A117 ○真田 幸代 <sup>1</sup> ・大塚 彰 <sup>2</sup> ・藤井 智久 <sup>1</sup> ・松倉 啓一郎 <sup>1</sup> ・松村 正哉 <sup>1</sup> (九冲農研 <sup>1</sup> ・革新工学セ <sup>2</sup> ) 2017年6月のヒメトビウンカ海外多飛来と九州地域の薬剤感受性動向	B117 ○豊島 真吾 <sup>1</sup> ・岸本 英成 <sup>2</sup> (農研機構北農研 <sup>1</sup> ・農研機構果樹茶研 <sup>2</sup> ) 自然植生におけるカブリダニ類の生息分布	C117 軸丸 祥大(広島総研農技C) 広島県におけるクビアカスカシバの加害部位の産地間変異とそれに応じた防除方法	D117 ○本田 善之・岩本 哲弥(山口農林総技セ) 防草シートとカーバムナトリウム塩液剤によるホウレンソウケナガコナダニの抑制効果	E117 ○安田 慶次・春日 大輔・清水 優子・喜友名 朝次(沖森研セ) デイゴヒメコバチ <i>Quadrastichus erythrinae</i> (Qe) の生活史から見た、天敵デイゴカタブロコバチ <i>Eurytoma erythrinae</i> (Ee) の最適な放飼時期
17:00	A118 ○秋月 岳 <sup>1</sup> ・中村 有希 <sup>2</sup> ・藤井 智久 <sup>3</sup> ・真田 幸代 <sup>3</sup> ・松村 正哉 <sup>3</sup> ・桑崎 誠剛 <sup>1</sup> ・横井 翔 <sup>1</sup> ・上樂 明也 <sup>1</sup> ・山本 公子 <sup>1</sup> ・篠田 徹郎 <sup>1</sup> (農研機構・生物機能部門 <sup>1</sup> ・農研機構・果樹茶部門 <sup>2</sup> ・農研機構・九冲農研 <sup>3</sup> ) ヒメトビウンカのフィプロニル抵抗性へのGABA受容体のA2' N変異の関与		C118 杖田 浩二(岐阜農技セ) フタモンマダラメイガとヒメコスカシバの幼虫死亡要因について	D118 ○上村 香菜子・清水 信孝・手柴 真弓・柳田 裕紹・石井 貴明・梶谷 裕二・菊原 賢次(福岡農林試) 西南暖地水田におけるクモ類保全効果の高い農法	E118 ○高木 正見・中平 賢吾・岩瀬 俊一郎(九大院・農) わが国におけるヨーロッパトビチビアメバチの分布(2017)
17:15	A119 ○窪田 聖一 <sup>1</sup> ・伊藤 博章 <sup>2</sup> ・崎本 孝江 <sup>2</sup> (愛媛農水研 <sup>1</sup> ・愛媛防除所 <sup>2</sup> ) 施設イチゴにおけるヒメナガカメムシの発生生態と薬剤感受性		C119 ○城田 安幸・佐藤 悠平・城田 創(医果同源りんご機能研) 無農薬りんご園の害虫管理(14) 7年間合成農薬・合成肥料を使用せず、有機認証を取得したりんご園に於けるリンゴスガ <i>Y. malinellus</i> の大発生	D119 ○平江 雅宏・柴 卓也(中央農研) 水稲分けつ期の深水処理によるイネウンカ類の幼虫密度抑制の可能性	E119 高須 啓志(九大・院農) キムネクロナガハムシの寄生蜂 <i>Tetrastichus brontispae</i> の蛹一成虫寄生

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F116 ○野山 晋平 <sup>1</sup> ・北野 生薫 <sup>1</sup> ・泉 進 <sup>1</sup> ・有本 裕 <sup>2</sup> ・鈴木 文詞 <sup>3</sup> (OATアグリオ (株) <sup>1</sup> ・理研 <sup>2</sup> ・農工大 院・BASE <sup>3</sup> ) 生育周期に着目したサフオイル乳剤によるナミハダニの防除	G116 ○奥出 紘太 <sup>1</sup> ・二橋 亮 <sup>2</sup> ・森山 実 <sup>2</sup> ・川原 玲香 <sup>3</sup> ・矢嶋 俊介 <sup>3</sup> ・深津 武馬 <sup>1,2</sup> (東大理 <sup>1</sup> ・産総研 <sup>2</sup> ・東京農大ゲノムセ <sup>3</sup> ) トンボの幼虫—成虫変態に 関与する分子基盤の解明に 向けて	H116 ○澁側 太郎 <sup>1</sup> ・ Katherina Beer <sup>2</sup> ・ Charlotte Helfrich-Forster <sup>2</sup> ・Guy Bloch <sup>3</sup> (大 阪市大 院理 <sup>1</sup> ・Univ. Wurzburg, Germany <sup>2</sup> ・ Hebrew Univ., Israel <sup>3</sup> ) セイヨウミツバチ育児カー ストは概日行動リズムを示 さないが、脳内時計遺伝子 PER発現は概日的なサイク ルを示す	I116 ○坂田 大介・秋野 順治 (DBFS) ヨコヅナサシガメ幼虫の排 泄物による同種幼虫の集合 効果とその化学因子	J116 ○Kurniawan Andreas <sup>1</sup> ・Sato Satoru <sup>2</sup> ・ Yasuda Hironori <sup>2</sup> (岩手大 院 <sup>1</sup> ・山形大? 農 <sup>2</sup> ) Effects of ambient temperature and the mud snail on performance of rice plant	16:30
F117 ○柳田 裕紹 <sup>1</sup> ・和氣 坂 成一 <sup>2</sup> (福岡農林試 <sup>1</sup> ・ OATアグリオ(株) <sup>2</sup> ) イチゴのナミハダニに対す る気門封鎖型薬剤の效果的 利用法の検討	G117 ○森山 実・深津 武 馬 (産総研・生物プロセ ス) クヌギカメムシが産生する 卵保護物質の分子・生化学 基盤の解明	H117 ○原田 哲夫 <sup>1</sup> ・古木 隆寛 <sup>1</sup> ・中城 満 <sup>2</sup> ・片桐 千 凜 <sup>3</sup> ・Vladimir Kostal <sup>4</sup> (高知大・院・環境生理 <sup>1</sup> ・ 高知大・院・理科教育 <sup>2</sup> ・ 東京電機大 <sup>3</sup> ・チェコ科学 アカデミー <sup>4</sup> ) 太平洋・インド洋分布外洋 棲ウミアメンボ類の採集密 度と天気、温度、海流との 関係	I117 ○上原 拓也 <sup>1</sup> ・前田 太郎 <sup>1</sup> ・霜田 政美 <sup>1</sup> ・辻井 直 <sup>2</sup> ・安居 拓恵 <sup>2</sup> (農研機 構生物機能 <sup>1</sup> ・農研機構中 央農研 <sup>2</sup> ) ナミヒメハナカメムシ虫体 に含まれるフェロモン様物 質の構造と機能		16:45
F118 ○村上 芳照・石田 久美子 (山梨総農セ) 山梨県におけるタバココナ ジラミ、ナミハダニ成虫の 薬剤感受性	G118 ○宇賀神 篤 <sup>1</sup> ・西野 浩史 <sup>2</sup> ・尾崎 克久 <sup>1</sup> (JT生 命誌研究館 <sup>1</sup> ・北大・電子 研 <sup>2</sup> ) ナミアゲハ雌成虫の食草認 識における脳の寄与の検討	H118 ○嶋田 正和 <sup>1</sup> ・長瀬 泰子 <sup>1</sup> ・大林 夏湖 <sup>1</sup> ・徳永 幸彦 <sup>2</sup> (東大・総合文化・ 広域 <sup>1</sup> ・筑波大・生命環境 <sup>2</sup> ) マメゾウムシ類の食性進 化：広範な科の寄主植物で 育つ2種の発見	I118 ○松本 信弘・今野 浩太郎 (農研機構生物機能 利用) シュウ酸カルシウム針状結 晶と相乗的耐虫効果を示す ヤマノイモ由来のタンパク 因子の探索について		17:00
F119 ○田嶋 崇吉・岸上 隆介・藤岡 伸祐 (日本農 薬株式会社) 殺菌剤イソプロチオランに よる割れ糸抑制がエチプ ロール・イソプロチオラン 粒剤の斑点米被害軽減効果 に与える影響について	G119 朝野 維起 (首都大・ 理工・生命) 飛翔に関わる外骨格構造	H119 上田 明良 (森林総研 九州) やんばるでの森林施業が腐 肉食性甲虫群集に与える影 響			17:15



	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
9:00	A201 ○安宅 雅 <sup>1</sup> ・城下 道昭 <sup>1</sup> ・諏訪 明之 <sup>2</sup> ・藤岡 伸祐 <sup>2</sup> (バイエルクロップサイエンス(株) <sup>1</sup> ・日本農業(株) <sup>2</sup> ) フルオピラム (ピーラム <sup>®</sup> ) 粒剤、ネマクリーン <sup>®</sup> 粒剤)の殺線虫活性	B201 ○Adachi Shuhei <sup>1</sup> ・Nakabayashi Yui <sup>2</sup> ・Fujita Shohei <sup>2</sup> ・Suzuki Yoshihito <sup>3</sup> ・Endo Nobuyuki <sup>4</sup> ・Tokuda Makoto <sup>2</sup> (Kagoshima Univ. <sup>1</sup> ・Saga Univ. <sup>2</sup> ・Ibaraki Univ. <sup>3</sup> ・NARO <sup>4</sup> ) Effects of <i>Riptortus pedestris</i> infestation on the phenology and physiology of the present and next generations of soybean and <i>Glycine soja</i>	C201 ○飯田 博之 <sup>1</sup> ・太田 泉 <sup>1</sup> ・上樂 明也 <sup>2</sup> ・山中 武彦 <sup>3</sup> ・須藤 正彬 <sup>4</sup> ・山村 光司 <sup>3</sup> ・武田 光能 <sup>1</sup> (農研機構野菜花き部門 <sup>1</sup> ・農研機構生物機能部門 <sup>2</sup> ・農研機構農環変動研 <sup>3</sup> ・農研機構果樹茶業部門 <sup>4</sup> ) ネギアザミウマの薬剤抵抗性系統にみられる適応度コストの検出	D201 ○吉田 和弘・富原 工弥・柳澤 由香里・田中 雅也・八瀬 順也 (兵庫農技総セ) イネ縮葉枯病発病株と健全株におけるヒメトビウンカの保害虫率	E201 ○光永 貴之・守屋 成一・長坂 幸吉 (農研機構中央農研) アブラバチ類の種間競争とバンカーシステムの安定性の関係
9:15	A202 山下 泉 (高知農技セ) 高知県の施設栽培ニラにおけるロビンネダニの薬剤感受性実態	B202 ○Hebatallah Abouelmaaty <sup>1</sup> ・Noureldin Ghazy <sup>1</sup> ・Vojislava Grbic <sup>2</sup> ・Miodrag Grbic <sup>2</sup> ・Takeshi Suzuki <sup>1</sup> (TUAT <sup>1</sup> ・UWO <sup>2</sup> ) Foliar application of dsRNA targeting chitinase gene in the spider mite, <i>Tetranychus urticae</i>	C202 ○関根 崇行・猪苗代 翔太・鈴木 香深・増田 俊雄 (宮城農園研) タマネギ及びキャベツ栽培におけるリビングマルチを活用したIPM体系の検討	D202 ○松倉 啓一郎・藤井 智久・真田 幸代・松村 正哉 (九州沖縄農研) イネウンカ防除のための天敵温存植物としてのマコモの利用可能性	E202 光永 貴之・守屋 成一・長坂 幸吉 (農研機構中央農研) アブラバチ類の雌成虫で見られる他雌への攻撃・排除行動
9:30	A203 ○横堀 亜弥 <sup>1</sup> ・光永 貴之 <sup>2</sup> ・島 克弥 <sup>3</sup> ・長坂 幸吉 <sup>2</sup> (宮城古川農試 <sup>1</sup> ・中央農研 <sup>2</sup> ・FMCケミカルズ(株) <sup>3</sup> ) 経口投与方法によるオオタバコガの薬剤感受性検定	B203 ○Fujii Tomohisa・Sanada-Morimura Sachiyo・Matsukura Keiichiro・Matsumura Masaya (KARC/NARO) Evolutionary interaction between insecticide resistance and virulence adaptation in <i>N. lugens</i>	C203 ○守屋 伸生・上里 卓己・秋田 愛子・稲田 拓郎 (沖縄農研セ) 沖縄県のマンゴー上に発生するチャノキイロアザミウマ <i>Scirtothrips dorsalis</i> C系統に対する各種薬剤の効果	D203 ○吉田 睦浩 <sup>1</sup> ・野中 隆志 <sup>2</sup> ・木村 貴志 <sup>1</sup> ・白川 陽一朗 <sup>2</sup> (農研機構九州沖縄農研 <sup>1</sup> ・宮崎県北諸県農林振興局 <sup>2</sup> ) ウンカシヘンチュウ高密度生息慣行農法水田におけるイネウンカ類発生状況	E203 ○井村 岳男 <sup>1</sup> ・今村 剛士 <sup>1</sup> ・國本 佳範 <sup>1</sup> ・世古 智一 <sup>2</sup> (奈良農研セ <sup>1</sup> ・農研機構西日本農研 <sup>2</sup> ) 採種用スイカにおける飛ばないナミテントウを利用したワタアブラムシ防除
9:45	A204 ○内山 徹・小澤 朗人 (静岡茶研センター) ジアミド剤を使用すると複合抵抗性が発達する？ チャノココクモンハマキのジアミド剤抵抗性系統作出による交差抵抗性の解明	B204 ○Chia-Ming LIU・Shigeru MATSUYAMA・Yooichi KAINOH (University of Tsukuba) Combined effect of pear leaf volatiles as a host finding cue for parasitoid <i>Lytopylus rufipes</i>	C204 ○下元 満喜 <sup>1</sup> ・廣瀬 拓也 <sup>2</sup> ・安達 鉄矢 <sup>1,3</sup> (高知農技セ <sup>1</sup> ・高知農技セ・果樹試 <sup>2</sup> ・現 宮崎大・農 <sup>3</sup> ) 施設栽培ヒュウガナツにおけるアザミウマ類の発生実態の解明と防除対策	D204 ○武田 藍・中井 善太・福田 寛 (千葉農林総研) イネクロカメムシに対する箱施用剤による防除効果 (本田試験)	E204 ○金子 修治・城塚 可奈子・柴尾 学 (大阪環農水研) 飛ばないナミテントウ成虫による露地ナスのアブラムシ密度抑制効果

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F201 ○新山 徳光・進藤 勇人（秋田農試） 水稻の高密度播種苗移植における育苗箱施用剤のイネミズゾウムシに対する防除効果	G201 ○古木 隆寛 <sup>1</sup> ・藤田 大輝 <sup>1</sup> ・中城 満 <sup>2</sup> ・原田 哲夫 <sup>1</sup> （高知大・院・環境生理 <sup>1</sup> ・高知大・院・理科教育 <sup>2</sup> ） 外洋棲センタウミアメンボと沿岸棲ケシウミアメンボの温度耐性と温度順応	H201 ○櫻田 理地 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>2</sup> ・矢野 修一 <sup>1</sup> （京大院・農 <sup>1</sup> ・京工織大 <sup>2</sup> ） ハタニが食痕上に産卵する理由	I201 ○尾崎 克久 <sup>1</sup> ・佐藤 愛 <sup>2</sup> ・村上 正志 <sup>2</sup> ・吉川 寛 <sup>1</sup> （JT生命誌研究館 <sup>1</sup> ・千葉大学・理 <sup>2</sup> ） アゲハチョウ食草転換の最初の一步をさがす	J201 ○阿部 芳久 <sup>1</sup> ・井手 竜也 <sup>2</sup> ・蘇 成元 <sup>3</sup> ・朱 道弘 <sup>3</sup> （九大院・比文 <sup>1</sup> ・国立科博・動物 <sup>2</sup> ・中南林科大・生科 <sup>3</sup> ） ゴールの形態では日本産既知種と区別できない中国産タマバチ科（膜翅目）1未記載種の発見	9:00
F202 ○清水 信孝・石井 貴明（福岡農林試） 九州地方におけるイネ縞葉枯病と媒介虫ヒメトビウンカの防除対策	G202 宮崎 仁美 <sup>1</sup> ・大竹 潤 <sup>1</sup> ・光野 秀文 <sup>2</sup> ・尾崎 克久 <sup>3</sup> ・Alvin Kah-Wei Hee <sup>4</sup> ・神崎 亮平 <sup>2</sup> ・西田 律夫 <sup>1</sup> ・小野 肇 <sup>1</sup> （京大院・農 <sup>1</sup> ・東大・先端研 <sup>2</sup> ・JT生命誌研究館 <sup>3</sup> ・マレーシアプトラ大 <sup>4</sup> ） ミカンコミバエ嗅覚受容体の機能解析：寄主果実に含まれる揮発成分への応答	H202 福勢 かおる <sup>1</sup> ・○矢野 修一 <sup>2</sup> （京大・農・生態情報 <sup>1</sup> ・京大院・農・生態情報 <sup>2</sup> ） 「今出たら殺られる」—孵化延期によるカブリダニの被食回避—	I202 ○富田 秀一郎・行弘 研司・河本 夏雄（農研機構・生物機能） 日本産クワコの遺伝的多様性について	J202 三田 敏治（九大院・農・昆虫） 西表島の牧草地で得られたクロハラカマバチは東アジアの水田で見られる系統とは異なる	9:15
F203 ○福田 侑記・奥谷 恭代（鳥取農試） 鳥取県におけるマメシクイガ成虫発生盛期の変動がジアミド系殺虫剤の防除効果に与える影響	G203 ○李 允求・木内 隆史・嶋田 透・勝間 進（東大院農・昆虫遺伝） エリサンの白い体色は尿酸顆粒の蓄積に起因する	H203 ○安部 洋 <sup>1</sup> ・櫻井 民人 <sup>2</sup> ・下田 武志 <sup>2</sup> ・富高 保弘 <sup>2</sup> ・澤田 有司 <sup>3</sup> ・平井 優美 <sup>3</sup> ・瀬尾 茂美 <sup>4</sup> ・上原 拓也 <sup>4</sup> ・大矢 武志 <sup>5</sup> ・松浦 昌平 <sup>6</sup> ・三富 正明 <sup>7</sup> ・梅村 賢司 <sup>7</sup> ・腰山 雅巳 <sup>8</sup> ・津田 新哉 <sup>2</sup> ・小林 正智 <sup>1</sup> （理研バイオリソースセンター <sup>1</sup> ・農研機構・中央農研 <sup>2</sup> ・理研CSRS <sup>3</sup> ・農研機構・生物機能利用研究部門 <sup>4</sup> ・神奈川県農業技術センター <sup>5</sup> ・広島県立総合技術研究所農業技術センター <sup>6</sup> ・Meiji Seika ファルマ <sup>7</sup> ・日本ゼオン <sup>8</sup> ） 植物の耐虫性メカニズムとアザミウマ行動制御への応用	I203 浜川 智樹 <sup>1</sup> ・門野 敬子 <sup>2</sup> ・富田 秀一郎 <sup>2</sup> ・藤井 告 <sup>3</sup> ・伴野 豊 <sup>3</sup> ・○小林 淳 <sup>1,4</sup> （山口大・農 <sup>1</sup> ・農研機構 <sup>2</sup> ・九州大・農 <sup>3</sup> ・山口大院・創成 <sup>4</sup> ） クワコとカイコの染色体置換系統の作製と表現型解析	J203 ○米田 洋斗 <sup>1</sup> ・三田 敏治 <sup>2</sup> （九大院・生資環・昆虫 <sup>1</sup> ・九大院・農・昆虫 <sup>2</sup> ） ヘリカメムシ卵寄生蜂の多様性とその識別点	9:30
F204 ○上室 剛 <sup>1</sup> ・福田 健 <sup>2</sup> （鹿児島農総セ大隅支場 <sup>1</sup> ・鹿児島農総セ茶業部 <sup>2</sup> ） 局所施用によるチャノホソガ成虫に対する各種薬剤の効果	G204 ○杉本 貴史 <sup>1</sup> ・五島 正幸 <sup>2</sup> ・上遠 岳彦 <sup>3</sup> ・新津 修平 <sup>3</sup> （農研機構・生物機能 <sup>1</sup> ・東海大・工 <sup>2</sup> ・国際基督教大・生物 <sup>3</sup> ） フチグロトゲエダシャクにおけるメス特異的な翅退縮に係わる遺伝子の探索	H204 ○下田 武志 <sup>1</sup> ・安部 洋 <sup>2</sup> ・小林 正智 <sup>2</sup> （農研機構中央農研 <sup>1</sup> ・理研・バイオリソースセンター <sup>2</sup> ） 植物の虫害防除機構がマメハモグリバエの食害・産卵行動に及ぼす影響	I204 ○藤井 告・伴野 豊（九大・家蚕遺伝子） 伴性遺伝子 <i>BmPHYHD1</i> のゲノム編集によるカイコ卵サイズの大型化	J204 高橋 一男（岡大院・環境生命） ハイパースペクトル画像解析による昆虫の翅干渉色の定量化法の検討	9:45

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
10:00	A205 ○園田 昌司・板垣有紀 (宇都宮大学) コナガ個体群におけるジアミド剤抵抗性の主要因であるリアノジン受容体遺伝子変異頻度の季節的な変化	B205 ○Kazumu Kuramitsu・Yooichi Kainoh (University of Tsukuba) Bottom-up effects of host plant species of <i>Mythimna separata</i> on the performance of its parasitoid	C205 ○石原 由紀・田上陽介 (静岡大・農) チバクロバネキノコバエと比べたネギネクロバネキノコバエ (仮) の被害実態について	D205 西野 実 (三重県農業研究所) ミナミアオカメムシによる大豆の子実被害に対する数種殺虫剤の効果	E205 ○世古 智一・三浦一芸 (農研機構西日本農研) 初期定着に優れたGUT延長型タイリクヒメハナカメムシ系統の育成
10:15	A206 ○須藤 正彬 <sup>1</sup> ・山村光司 <sup>2</sup> ・園田 昌司 <sup>3</sup> ・山中武彦 <sup>2</sup> (農研機構・茶病害虫 <sup>1</sup> ・農業環境変動研究センター <sup>2</sup> ・宇都宮大・農 <sup>3</sup> ) キャピラリーDNAシーケンサーを用いた抵抗性頻度推定の統計モデル	B206 ○Mitaka Yuki・Yanagihara Saki・Mori Naoki・Matsuura Kenji (Kyoto Univ.) Pheromone communication and age-based polyethism in termite soldiers	C206 ○小俣 良介・岩瀬亮三郎・渡辺 俊朗・植竹恒夫 (埼玉農技研) ネギ畑に生息するドヨウオニグモ成体のネギネクロバネキノコバエ ( <i>Bradysia</i> sp.) 成虫に対する機能の反応	D206 上野 清 (山形農総研セ水田農試) 飼料用米栽培圃場に隣接する主食用米栽培圃場への斑点米カメムシ類の影響について	E206 ○松岡 寛之・難波加奈 (岡山農研) 岡山県の現地露地栽培ナスにおけるタバコカスミカメのミナミキイロアザミウマ防除効果の検討
10:30	A207 ○降幡 駿介・今野文・五箇 公一 (国立環境研) トンボ類幼虫における殺虫剤感受性の種間差	B207 ○Eisuke Tasaki <sup>1,2</sup> ・Kazuya Kobayashi <sup>1</sup> ・Kenji Matsuura <sup>1</sup> ・Yoshihito Iuchi <sup>2</sup> (Lab. Insect Ecol., Kyoto Univ. <sup>1</sup> ・Dept. Agri., Yamaguchi Univ. <sup>2</sup> ) Long-lived termite queens have an efficient antioxidant system	C207 ○有本 誠 <sup>1</sup> ・上杉 龍士 <sup>2</sup> ・日本 典秀 <sup>1</sup> ・末吉 昌宏 <sup>3</sup> ・吉松 慎一 <sup>4</sup> (中央農研 <sup>1</sup> ・東北農研 <sup>2</sup> ・森林総研九州支所 <sup>3</sup> ・農環研 <sup>4</sup> ) DNAマーカーによるネギネクロバネキノコバエの識別技術の開発	D207 ○永峯 淳一・菅 太一 (山形農総研セ) 高刈りによる水田畦畔のイネ科植物の抑制効果と斑点米カメムシ類の発生	E207 ○小原 慎司・手塚俊行 (株式会社 アグリ総研) タバコカスミカメが寄生したトマトへのオンシツコナジラムの忌避効果の実証
10:45	A208 ○眞生田 聖也・阿部誠・野下 浩二・田母神 繁 (秋田県立大・生物資源) オオタバコガ幼虫がトマトの未熟果実を好む理由	B208 ○Mizumoto Nobuaki・Dobata Shigeto (Insect Ecology, Kyoto Univ.) Termite search strategies when a mating pair gets separated	C208 ○阿曾 和基・豊嶋悟朗 (長野農試) 長野県の大田圃場におけるマメシクイガ成虫の移動分散	D208 ○佐藤 安志・須藤正彬・萬屋 宏・屋良 佳緒利 (農研機構果茶研) チャ害虫の発生予察のためのLED光源予察灯	E208 ○日本 典秀 <sup>1</sup> ・長坂幸吉 <sup>1</sup> ・植原 健人 <sup>1</sup> ・中保一浩 <sup>2</sup> (農研機構中央農研 <sup>1</sup> ・農研機構野菜花き部門 <sup>2</sup> ) パーベナ‘タピアン’の植栽がタバコカスミカメのトマト上への定着へ及ぼす影響

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F205 ○内藤 龍太 <sup>1</sup> ・杉本博之 <sup>2</sup> ・宗野 俊平 <sup>3</sup> ・竹松 葉子 <sup>4</sup> （アース製薬株式会社 <sup>1</sup> ・山口県農林総合技術センター <sup>2</sup> ・山口県樹木医学会 <sup>3</sup> ・山口大学大学院創成科学研究科 <sup>4</sup> ） 新規シロアリ用バイト剤と市販エアゾール剤のヤマトシロアリの駆除効果	G205 ○菅原 亮平 <sup>1,2</sup> ・田中 誠二 <sup>1</sup> （農研機構 <sup>1</sup> ・学振 <sup>2</sup> ） ホルモンと環境によるTakeout黄化遺伝子を介したサバクトビバッタの体色制御	H205 ○山中 武彦・佐藤安志・田端 純（農研機構） チャノコカクモンハマキはなぜ明確な世代分割を示すのか？	I205 ○大出 高弘 <sup>1</sup> ・三戸太郎 <sup>2</sup> ・新美 輝幸 <sup>3</sup> （京大院農 <sup>1</sup> ・徳島大院生物資源 <sup>2</sup> ・基生研進化発生 <sup>3</sup> ） 翅形成遺伝子群は昆虫の背板縁形成に機能する	J205 ○綿引 大祐 <sup>1</sup> ・吉松 慎一 <sup>2</sup> （東京農大・学振DC <sup>1</sup> ・農研機構 農環研・東京農大 <sup>2</sup> ） カキの害虫ムーアキシタクチバの同胞種の日本からの発見と識別法	10:00
F206 ○嘉数 若子 <sup>1</sup> ・新垣 則雄 <sup>1</sup> ・永山 敦士 <sup>2</sup> ・田嶋 嘉治 <sup>3</sup> ・望月 康司 <sup>4</sup> ・玉城 由美子 <sup>4</sup> ・知念 さゆり <sup>4</sup> ・入嵩西 敦 <sup>5</sup> ・内藤 尚之 <sup>6</sup> （沖縄農研セ <sup>1</sup> ・沖縄県営農支援課 <sup>2</sup> ・明光化成(株) <sup>3</sup> ・興南施設管理(株) <sup>4</sup> ・石垣島製糖(株) <sup>5</sup> ・信越化学工業(株) <sup>6</sup> ） 自動制御で合成性フェロモンを放出する封入揮発装置の開発について	G206 ○神村 学 <sup>1</sup> ・伊藤 由果 <sup>1</sup> ・上樂 明也 <sup>1</sup> ・木田 奈緒 <sup>2</sup> ・石川 謙 <sup>2</sup> ・内山 博允 <sup>3</sup> ・長島 孝行 <sup>4</sup> （農研機構 生物機能 <sup>1</sup> ・東工大物質理工学院 <sup>2</sup> ・東農大ゲノム <sup>3</sup> ・東農大農 <sup>4</sup> ） ナミハナムグリのコレステリック構造色発色におけるメラニンの関与	H206 藤家 梓（元千葉農総研） ミャンマーのゴマ栽培における害虫問題	I206 ○増岡 裕大 <sup>1</sup> ・前川 清人 <sup>2</sup> （農研機構・生物機能 <sup>1</sup> ・富山大・理工 <sup>2</sup> ） シロアリの兵隊分化において脱皮と形態改変を両立させる機構の探索	J206 井上 広光（農研機構・果樹茶） ビワの新害虫ビワキジラミの遺伝子診断法の開発	10:15
F207 ○田中 雅也 <sup>1</sup> ・刑部 正博 <sup>2</sup> ・八瀬 順也 <sup>1</sup> ・神頭 武嗣 <sup>1</sup> ・富原 工弥 <sup>1</sup> ・佐藤 衛 <sup>3</sup> （兵庫農技総セ <sup>1</sup> ・京大院農・生態情報 <sup>2</sup> ・農研機構野菜花き研 <sup>3</sup> ） UVB照射によるハダニ密度抑制効果に影響を及ぼす要因	G207 ○田中 良明 <sup>1</sup> ・内山 博允 <sup>2</sup> ・関 健仁 <sup>2</sup> （農研機構・生物機能 <sup>1</sup> ・東京農大 <sup>2</sup> ） トビロウンカおよびアザミウマ類のfeeding RNAiを阻害する要因の探索	H207 ○三代 浩二・岸本 英成（農研機構果樹茶業研究部門） 数種木本類での合成集合フェロモントラップによる果樹カメムシ類成・幼虫の誘殺消長	I207 高瀬 鍛・青木 不学・鈴木 雅京（東大院新領域） dunceの中枢神経系における性特異的発現制御機構の解析	J207 ○香川 清彦 <sup>1</sup> ・高橋 滋 <sup>2</sup> （宇都宮大・農 <sup>1</sup> ・宇都宮市 <sup>2</sup> ） 日本におけるカナビキソウに寄生するアブラムシに関する知見	10:30
F208 ○刑部 正博・村田 康允・杉岡 稔朗・中井 一宏・川上 真理・平井 伸博（京大院農） UVB照射によるハダニ抑制メカニズムとカブリダニ保護の可能性	G208 ○西出 雄大 <sup>1</sup> ・横井 翔 <sup>1</sup> ・田中 博光 <sup>1</sup> ・二橋 亮 <sup>2</sup> ・深津 武馬 <sup>2</sup> （農研機構・生物機能 <sup>1</sup> ・産総研・生物プロセス <sup>2</sup> ） チャバネアオカメムシにおける免疫関連遺伝子の機能解析	H208 ○水谷 信夫・北村 登史雄（九州沖縄農業研究セ） ミナミアオカメムシのオクラにおける発育	I208 ○坂本 卓磨・天竺桂 弘子・岩淵 喜久男（農工大・連合農学） 多胚性寄生蜂における多胚形成期遺伝子の発現動態解析		10:45

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
11:00	A209 ○阿部 誠・本間 悠人・野下 浩二・田母神 繁 (秋田県立大・生物資源) イチゴハムシの寄主範囲を決める化学的要因	B209 ○Nozaki Tomonari・Matsuura Kenji (Kyoto Univ.) Ploidy elevation in the fat body underlying reproductive division of labor in termites	C209 ○竹内 博昭・遠藤 信幸 (農研機構中央農研) マメシクイガ幼虫の再営繭時期とそれに及ぼす温度の影響	D209 ○八尾 充睦 <sup>1</sup> ・清河 文字 <sup>1</sup> ・植松 繁 <sup>2</sup> (石川農研 <sup>1</sup> ・石川県庁 <sup>2</sup> ) 石川県におけるLED光源を利用した予察灯の水稲害虫に対する誘引性の検討	E209 西森 紗月 <sup>1</sup> ・○矢野 栄二 <sup>2</sup> ・米谷 衣代 <sup>1</sup> ・小澤 理香 <sup>2</sup> ・高林 純示 <sup>2</sup> (近畿大農 <sup>1</sup> ・京大生態研 <sup>2</sup> ) バンカー植物由来の揮発性物質に対するタバコカスミカメの誘引反応
11:15	A210 ○小澤 理香 <sup>1</sup> ・遠藤 弘基 <sup>2</sup> ・杉本 貢一 <sup>1</sup> ・高林 純示 <sup>1</sup> ・後藤 哲雄 <sup>3</sup> ・有村 源一郎 <sup>2</sup> (京大生態研 <sup>1</sup> ・東理大基礎工 <sup>2</sup> ・茨城大農 <sup>3</sup> ) カンザワハダニにおける解毒能力と植物の防衛誘導能力の遺伝的変異	B210 ○Fujita Tadahide・Namba Yusuke・Matsuura Kenji (Kyoto Univ.) Direct evidence for the costs of parthenogenetic alate production in a termite.	C210 ○稲田 誠・加々美 貴弘・堀 雅仁・春山 裕史 (日産化学工業(株)) 新規殺虫剤フルキサメタミド(グレーシア <sup>®</sup> )に関する研究 ~葉菜類における防除効果と特性~	D210 ○石島 力・平江 雅宏 (中央農業研究センター) 水稲害虫に対するLED光源を用いた予察灯の誘引力評価	E210 ○中尾 史郎 <sup>1</sup> ・三石 帆波 <sup>1</sup> ・藤本 顕次 <sup>1</sup> ・塘 忠 顕 <sup>2</sup> ・兼子 伸吾 <sup>2</sup> ・喜久村 智子 <sup>3</sup> ・櫻井 民人 <sup>4</sup> (京都府立大 <sup>1</sup> ・福島大 <sup>2</sup> ・沖縄北部普及 <sup>3</sup> ・農研機構中央農研 <sup>4</sup> ) アカメガシワクダアザミウマの生殖休眠の遺伝:捕食量と低温保存性への影響
11:30	A211 ○金城 美沙 <sup>1</sup> ・日室 千尋 <sup>2,3</sup> ・本間 淳 <sup>2,3</sup> ・大石 毅 <sup>1</sup> (沖縄防除セ <sup>1</sup> ・琉球産経 <sup>2</sup> ・琉大農 <sup>3</sup> ) イモゾウムシ人工飼料の保存期間に関する試験	B211 ○Inagaki Tatsuya・Matsuura Kenji (Kyoto University) Termite gut symbionts contribute to nest hygiene	C211 ○大井田 寛 <sup>1</sup> ・福田 寛 <sup>1</sup> ・鈴木 健司 <sup>1</sup> ・清水 喜一 <sup>2</sup> (千葉農林総研 <sup>1</sup> ・住友化学 <sup>2</sup> ) 緑肥作物等の給餌がトビロヒョウタンゾウムシの産卵と生存に及ぼす影響	D211 ○奥谷 恭代・福田 侑記 (鳥取農試・鳥取防除所) 鳥取県におけるイネ縞葉枯病およびヒメトビウンカの発生状況と発生増加要因	E211 ○屋良 佳緒利 <sup>1</sup> ・下 田 武志 <sup>2</sup> ・佐藤 安志 <sup>1</sup> (農研機構果樹茶部門 <sup>1</sup> ・農研機構中央農研 <sup>2</sup> ) チャ実生を用いたシルベストリコバチ2系統の簡易飼育法
11:45	A212 ○野村 夏希・笠井 敦 (静岡大院・応用昆虫) 人工飼料によるヨツモンカメノコハムシが餌に要求する条件の評価		C212 ○本間 淳 <sup>1,2,3</sup> ・日室 千尋 <sup>1,2,3</sup> ・池川 雄亮 <sup>1,2,3</sup> ・松山 隆志 <sup>2</sup> (琉球産経 <sup>1</sup> ・沖縄病害虫防技センター <sup>2</sup> ・琉大・農 <sup>3</sup> ) 野生植物への寄生率を利用した害虫の根絶確認法の効率化	D212 中川 浩二 (山口農林総技セ) 2017年の山口県におけるヒメトビウンカとイネ縞葉枯病の発生要因 ~過去の多発年2008年との比較~	E212 ○太田 泉 <sup>1</sup> ・浦入 千宗 <sup>1</sup> ・安部 順一朗 <sup>2</sup> ・水谷 信夫 <sup>3</sup> ・柿元 一樹 <sup>4</sup> ・大野 和朗 <sup>5</sup> (農研機構野菜花き研 <sup>1</sup> ・農研機構西日本農研 <sup>2</sup> ・農研機構九州沖縄農研 <sup>3</sup> ・鹿児島農業開発総合セ <sup>4</sup> ・宮崎大学農学部 <sup>5</sup> ) エンドウで発生したナモグリバエ寄生蜂の種構成と地域間差異

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場
F209 松橋 伊織（岩手農研セ） 施設栽培トマトの主要害虫に対する赤色防虫ネットの侵入抑制効果	G209 栗原 駿太 <sup>1</sup> ・竹下 和貴 <sup>2</sup> ・松浦 優 <sup>2</sup> ・曾根 輝雄 <sup>1</sup> ・伊藤 英臣 <sup>3</sup> ・菊池 義智 <sup>1,3</sup> （ <sup>1</sup> 北大・農・ <sup>2</sup> 琉大・熱生研・ <sup>3</sup> 産総研・北海道） 細胞内共生の新規モデル：オオモンクロナガカメムシ	H209 ○叶 和喜 <sup>1</sup> ・三田 敏治 <sup>2</sup> （九大院・生資環・昆虫 <sup>1</sup> ・九大院・農・昆虫 <sup>2</sup> ） ヒメトビウンカの二次寄生蜂 <i>Helegonatopus dimorphus</i> の発育零点、有効積算温度、生涯産卵数、成虫寿命および寄主の発育段階による寄生への影響	I209 ○秋元 信一 <sup>1</sup> ・李 楊 <sup>1</sup> ・今中 哲二 <sup>2</sup> ・佐藤 斉 <sup>3</sup> ・石田 健 <sup>4</sup> （北大・農 <sup>1</sup> ・京大・原子炉実験所 <sup>2</sup> ・茨城県立医療大学 <sup>3</sup> ・東大・農 <sup>4</sup> ） 福島第一原発事故による汚染土がアブラムシ卵の発生と孵化に与える影響	11:00
F210 ○村田 未果 <sup>1</sup> ・針山 孝彦 <sup>2</sup> ・山濱 由美 <sup>2</sup> ・外山 美奈 <sup>2</sup> ・太田 泉 <sup>1</sup> （農研機構 野花研 <sup>1</sup> ・浜松医大 <sup>2</sup> ） ミナミキイロアザミウマの防除のための赤色光の利用条件	G210 福森 香代子 <sup>1</sup> ・古賀 隆一 <sup>1</sup> ・Hassan Salem <sup>2,3</sup> ・Martin Kaltenpoth <sup>3</sup> ・○深津 武馬 <sup>1</sup> （産業技術総合研究所 <sup>1</sup> ・Emory Univ <sup>2</sup> ・Max Planck Inst <sup>3</sup> ） カメノコハムシ類における極小ゲノム共生細菌 <i>Stammera</i> の機能および進化	H210 ○新垣 則雄・嘉数 若子（沖縄農研セ） シロスジオサゾウムシ成虫の捕獲に最適なさとうきび茎トラップの検討	I210 ○田中 草太 <sup>1</sup> ・木野 内 忠稔 <sup>2</sup> ・高橋 知之 <sup>2</sup> ・牧 大介 <sup>2</sup> ・納富 昭弘 <sup>3</sup> ・高橋 千太郎 <sup>1,2</sup> （京大院農学 <sup>1</sup> ・京大原子炉 <sup>2</sup> ・九大院医学研究院 <sup>3</sup> ） 原発事故後の昆虫類への放射線影響：カイコを用いた <sup>137</sup> Csの内部被ばくモデル実験	11:15
F211 ○大矢 武志 <sup>1</sup> ・金満 伸央 <sup>2</sup> ・櫻井 民人 <sup>3</sup> ・安部 洋 <sup>4</sup> （神奈川農技セ <sup>1</sup> ・スタンレー電気 <sup>2</sup> ・農研機構中央農研 <sup>3</sup> ・理研BRC <sup>4</sup> ） トマト育苗中赤色光照射によって誘導されるミカンキイロアザミウマ忌避反応	G211 ○徳田 岳 <sup>1</sup> ・福井 知穂 <sup>1</sup> ・松浦 優 <sup>1</sup> ・渡辺 裕文 <sup>2</sup> ・藤島 政博 <sup>3</sup> （琉球大・熱生研 <sup>1</sup> ・農研機構 <sup>2</sup> ・山口大・理 <sup>3</sup> ） タカサゴシロアリの腸内共生スピロヘータによるキシラン分解	H211 ○河野 勝行・飯田 博之・太田 泉（農研機構 野菜花き研） ウリ科果菜類（カボチャ・ニガウリ・スイカ）の訪花昆虫の網羅的調査		11:30
F212 ○遠藤 信幸 <sup>1</sup> ・本田 善之 <sup>2</sup> ・岩本 哲弥 <sup>2</sup> ・弘中 満太郎 <sup>3</sup> （農研機構中央農研 <sup>1</sup> ・山口農林総セ <sup>2</sup> ・石川県立大 <sup>3</sup> ） 紫外光と緑色光を併用した光源はミナミアオカメムシやアオクサカメムシの誘引に有効である	G212 ○陰山 大輔 <sup>1</sup> ・藤原 亜希子 <sup>2,3</sup> ・杉本 貴史 <sup>1</sup> ・加藤 雄大 <sup>4</sup> ・和多田 正義 <sup>4</sup> （農研機構・生物機能 <sup>1</sup> ・群馬大・食健康 <sup>2</sup> ・理研・CSRS <sup>3</sup> ・愛媛大・理 <sup>4</sup> ） 非細菌性因子による全メス現象：RNAウイルスが原因か？	H212 星崎 杉彦（東大 農） Dyarの法則は、頭サイズだけでなく全身サイズにも当てはまるか？		11:45

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
14:15	A213 ○樋口 千晶・阿部 誠・野下 浩二・田母神 繁 (秋田県立大・生物資源) 観葉植物のヘデラが昆虫の食害を受けにくいのはなぜか	B213 ○小出 哲哉・辻井 修・三宅 律幸・恒川 靖弘 (愛知農総試) くくり罠で捕獲した野生獣の可動範囲を制限するくくり罠補助具の開発	C213 ○嶽崎 研 <sup>1</sup> ・田ノ頭 拓 <sup>1</sup> ・小堀 陽一 <sup>2</sup> ・大澤 剛士 <sup>3</sup> ・内藤 尚之 <sup>4</sup> (鹿児島農総セ <sup>1</sup> ・国際農研センター <sup>2</sup> ・農環研 <sup>3</sup> ・信越化学 <sup>4</sup> ) サトウキビのイネヨトウに対する交信かく乱による防除効果—フェロモン成分の放出点数と防除効果	D213 ○柴 卓也・平江 雅宏・奥田 充 (中央農研) イネ縞葉枯病発生圃場におけるイネの減収量の推定法	E213 ○池川 雄亮 <sup>1,2,3</sup> ・日室 千尋 <sup>1,2,3</sup> ・本間 淳 <sup>1,2,3</sup> (琉球産経 <sup>1</sup> ・沖防技セ <sup>2</sup> ・琉球大学 <sup>3</sup> ) 逐次的な不妊虫放飼を用いた野生虫の全域的な根絶は可能か?
14:30	A214 今野 浩太郎 (農研機構 生物機能利用研究部門) 植物が昆虫の食害から身を守るにはどのような栄養的・量的防御が有効か? 定量的食物網数理モデルからの考察	B214 ○明石 浩和・小林 正秀 (京森林技セ) 安価な鳥獣撃退器の開発	C214 ○塩尻 かおり <sup>1</sup> ・助川 聖 <sup>2</sup> ・有村 源一郎 <sup>2</sup> (龍谷大学・農 <sup>1</sup> ・東京理科大学・基礎工 <sup>2</sup> ) ミントとダイズの植物間コミュニケーション: メカニズムから応用まで	D214 ○石崎 摩美・石島 力・平江 雅宏 (中央農研) 斑点米カメムシ発生予察用粘着トラップへのイチモンジセセリ成虫の捕獲消長と水田内の卵・幼虫の発生消長	E214 ○張 凱 <sup>1</sup> ・一木 良子 <sup>2</sup> ・中村 達 <sup>3</sup> ・古川 誠 <sup>4</sup> (筑波大・生資 <sup>1</sup> ・農研機構 <sup>2</sup> ・国際農研 <sup>3</sup> ・筑波大・生命環境 <sup>4</sup> ) ヤドリバエはホストの脂肪体を誘引する!
14:45	A215 ○谷山 克也・斎藤 佳乃・堀 雅敏 (東北大院農・生物制御) チカイエカの変態に伴う青色光の殺虫効果の変化	B215 ○小林 正秀・明石 浩和 (京森林技セ) ドローンを用いたシカの撃退	C215 ○佐藤 信輔・窪田 直也・鹿島 哲郎 (茨城農総セ園研) コナラ堅果を産卵基質とした場合のクリシギゾウムシ <i>Curculio sikkimensis</i> (コウチュウ目: ゾウムシ科)の産卵に関する研究	D215 ○桐谷 幸生・永井 潤子 (三井化学アグロ(株)) クモヘリカメムシによる被害子実(「しいな」粳、肩米、斑点米)の頻度分布	E215 ○中村 達 <sup>1</sup> ・田中 利治 <sup>2</sup> (国際農研 <sup>1</sup> ・名古屋大アジアサテライト <sup>2</sup> ) 微小卵型ヤドリバエ幼虫は寄主内でどのように隠れるべき特定器官を見つけるのか
15:00	A216 神野 壮大 <sup>1</sup> ・柳川 綾 <sup>2</sup> ・藏本 博史 <sup>1</sup> ・藏本 厚一 <sup>3</sup> ・的場 仁志 <sup>3</sup> ・秋野 順治 <sup>1</sup> (京都工芸繊維大学 <sup>1</sup> ・京都大学 <sup>2</sup> ・日本リモナイト <sup>3</sup> ) 阿蘇リモナイトの防蟻効果		C216 長田 庸平 (大阪市立自然史博物館) 自然史博物館の成虫期における形態比較および種同定	D216 ○小澤 朗人・内山 徹・大石 哲也・亀山 阿由子 (静岡茶研センター) 茶園におけるドローン(マルチ回転翼型無人航空機)を用いた空撮画像によるチャノミドリヒメヨコバイの新芽被害の推定	
15:15			C217 ○米谷 衣代 <sup>1</sup> ・潮 雅之 <sup>2,3</sup> ・神野 五基 <sup>1</sup> (近畿大学・農 <sup>1</sup> ・京大生態研セ <sup>2</sup> ・JSTさがけ <sup>3</sup> ) 作物上に残る天敵・害虫のDNAを検出する	D217 ○古澤 慧 <sup>1</sup> ・佐藤 邦彦 <sup>1</sup> ・鹿子木 聡 <sup>2</sup> (宮崎総農試茶業支場 <sup>1</sup> ・鹿児島総農セ茶業部 <sup>2</sup> ) 茶の新芽重から考える薬剤散布量の検討	

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F213 ○吉原 大介 <sup>1</sup> ・堀 雅敏 <sup>1</sup> ・阿部 芳久 <sup>2</sup> (東北大学院農 <sup>1</sup> ・九州大学院比文 <sup>2</sup> ) ハモグリバエ類に対する青色光の殺虫効果に関する研究	G213 ○藤原 亜希子 <sup>1,2</sup> ・孟 憲英 <sup>3</sup> ・鎌形 洋一 <sup>3</sup> ・土`田 努 <sup>4</sup> (群馬大・食健康 <sup>1</sup> ・理研・CSRS <sup>2</sup> ・産総研・生物プロセス <sup>3</sup> ・富山大院・理工 <sup>4</sup> ) コナジラミ類における複合共生系のユニークな棲み分け機構の一般性と多様性	H213 香取 郁夫 (近畿大・農・昆虫) ある種のチョウの幼虫に見られる頭部突起の適応的意義 ～ゴマダラチョウ幼虫における「天敵からの防衛」仮説の検証Ⅲ～			14:15
F214 ○石崎 琢也・山内 一輝・堀 雅敏 (東北大学院農) 青色光を利用したオオチヨウバエの殺虫技術の開発	G214 ○大手 学 <sup>1,2</sup> ・嘉糠 洋陸 <sup>1,2</sup> (慈恵医大熱帯医学 <sup>1</sup> ・慈恵医大衛生動物セ <sup>2</sup> ) 共生細菌ボルバキアによるRNAウイルス抑制の分子機構	H214 ○湯川 淳一 <sup>1</sup> ・山村 光司 <sup>2</sup> ・藤本 賢志 <sup>3</sup> ・徳田 誠 <sup>4</sup> ・室屋 俊一郎 <sup>5</sup> ・牧 司 <sup>6</sup> ・佐土嶋 敏明 <sup>7</sup> ・福田 健 <sup>8</sup> (九州大学 <sup>1</sup> ・農環研 <sup>2</sup> ・ソフト・スタジオ <sup>3</sup> ・佐賀大学 <sup>4</sup> ・鹿児島市 <sup>5</sup> ・サンケイ化学 <sup>6</sup> ・門司植防 <sup>7</sup> ・鹿児島農総セ <sup>8</sup> ) 台風およびシロダモタマバエとヒメリンゴカミキリがシロダモ (クスノキ科) の葉命に及ぼす影響 - Key-factor/key-stage analysis による解析結果-			14:30
F215 ○比嘉 真太 <sup>1</sup> ・河野 伸二 <sup>1</sup> ・原口 大 <sup>2</sup> (沖縄農研セ <sup>1</sup> ・沖縄農研セ宮古 <sup>2</sup> ) X線照射による不妊化技術の検討ーナスミバエの不妊化ー	G215 ○土`田 努 <sup>1</sup> ・大西 浩平 <sup>1</sup> ・前田 太郎 <sup>2</sup> ・重信 秀治 <sup>2</sup> ・二河 成男 <sup>3</sup> ・深津 武馬 <sup>4</sup> (富山大院・理工 <sup>1</sup> ・基生研 <sup>2</sup> ・放送大 <sup>3</sup> ・産総研 <sup>4</sup> ) 共生細菌は、宿主アブラムシの内分泌系を操作し、体色変化を引き起こす？	H215 ○田中 幸一 <sup>1</sup> ・村田 浩平 <sup>2</sup> (農業環境変動研究セ <sup>1</sup> ・東海大・農 <sup>2</sup> ) 外来昆虫ブタクサハムシの指宿市の個体群：九州の他地域と光周性が違う？			14:45
F216 井口 雅裕 (和歌山農試) 施設密閉高温処理によるアザミウマ類密度抑制効果と天敵類に及ぼす影響		H216 ○岸 茂樹・池上 真木彦・五箇 公一 (国立環境研) ツマアカスズメバチの巢の空間分布をバイトトラップから推定できるか			15:00
F217 ○柳川 綾 <sup>1</sup> ・三谷 友彦 <sup>1</sup> ・梶原 篤 <sup>2</sup> ・仲島 浩紀 <sup>3</sup> ・Elie Le-Quemener <sup>4</sup> ・Jean-Phillip Stayer <sup>4</sup> (京大生存研 <sup>1</sup> ・奈良教大 <sup>2</sup> ・帝塚山高校 <sup>3</sup> ・INRA <sup>4</sup> ) IoT(Internet of Things)電磁場エネルギーにおける昆虫生体の熱エネルギー吸収性		H217 ○五箇 公一・坂本 佳子・岸 茂樹 (国立環境研) 国立環境研究所におけるヒアリなど外来昆虫類の防除手法開発			15:15